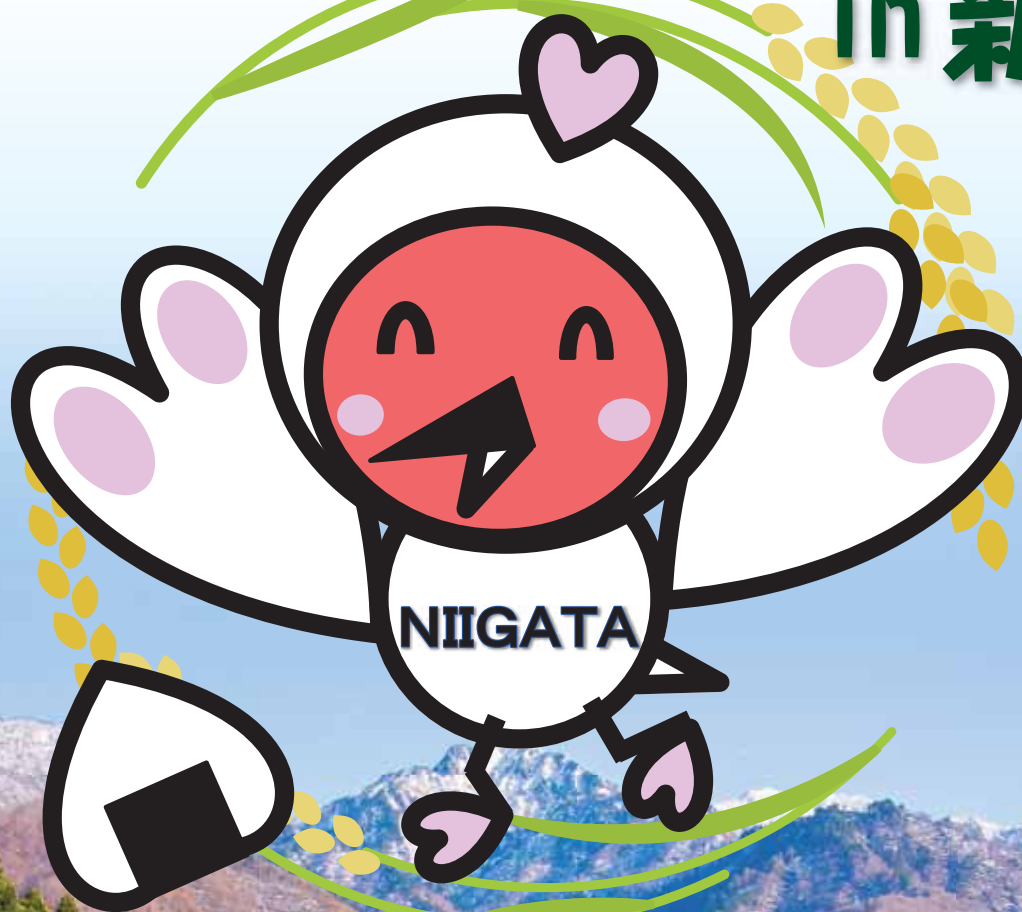




全日本民医連

第35回

糖尿病シンポジウム in 新潟



動きだそう!
～一步を踏み出すトキめき体験～

プログラム・抄録集

会 期 2018年10月26日金・27日土

会 場 新潟東映ホテル

実行委員長 岡田 節朗 かえつクリニック所長



全日本民医連

第35回

糖尿病シンポジウム in 新潟

動きだそう！
～ 一步を踏み出すトキめき体験 ～

プログラム・抄録集

会 期 2018年10月26日金・27日土

会 場 新潟東映ホテル

実行委員長 岡田 節朗 かえつクリニック所長

第35回 全日本民医連
糖尿病シンポジウム in 新潟 事務局

事務局長 稲月 幸範

新潟勤労者医療協会 下越病院

〒956-0814 新潟県新潟市秋葉区東金沢1459番地1

TEL: 0250-22-4711

E-mail: dmsymponiigata@niigata-min.or.jp

INDEX

ごあいさつ	1
実行委員一覧	2
参加者のみなさまへ	3
座長・演者へのお知らせ	5
座長へのお知らせ	6
交 通 案 内	7
会場案内図	8
日 程 表	10
プログラム	12
抄 録	
特別講演	28
研究報告	30
ワークショップ	32
口頭発表	38
ポスター発表	72
県連別演題一覧	90
企業展示会場	94
編 集 後 記	95

ごあいさつ

第35回全日本民医連糖尿病シンポジウム

実行委員長 岡田 節朗

かえつクリニック 所長



この度、第35回全日本民医連糖尿病シンポジウムを、16年ぶりに新潟で開催させて頂くこととなりました。

今回の大テーマは「動きだそう！ ～一步を踏み出すドキドキ体験～」と致しました。

体験型の企画に参加にされて、皆様がステップアップできる事を目指しております。

新潟大学医学部教授の曾根博仁先生から「大規模臨床エビデンスに基づく糖尿病の運動療法指導」、新潟薬科大学教授の朝倉俊成先生から「デバイスの特徴を習得しよう！」、1型糖尿病のランナーの岡田果純さんから「小さな一步の大切さ」などのお話をお願いしております。知識とスキルと元気がもらえるものと期待しております。

また例年通り、一般演題(口頭、ポスター)も予定しておりますが、100近い演題を頂きありがとうございました。当日は活発な討論で皆様の経験を共有し、深めていただきたいと思います。ワークショップは「栄養」、「運動」、「薬」、「腎症」、「歯科」の5つを準備しました。頭、手、お口を動かす参加型で学んでいただきたいと思います。

今回運動療法の実体験コースも新企画として行う予定です。2日目午前6時30分からのモーニング Walk は、ウオーターフロント新潟のすがすがしさを、肌で感じていただけたと思います。リラクゼーションとして体を動かす楽しさも体験して頂きたく存じます。発表演題のみならず、運動できる御準備もお願い致します。また座位継続時間を短縮する取り組みも行います。ご協力をよろしくお願い致します。

今回は特に地元中心の手作り企画・運営となっておりますが、全国の皆様からも座長の応援をお願いしご快諾いただきました。大変ありがとうございます。

皆様は新潟の印象をどのようにお持ちでしょうか？おいしい魚とお酒、雪でしょうか。季節柄雪はお見せできませんが、夕食交流会では、新鮮な食材と港町のみやび(古町芸妓)でおもてなししたいと思います。その後の2次会は自由行動とさせていただきますので、駅前繁華街でお気に入りのお店を見つけていただければ幸いです。

では皆様、2日間大いに学び、食べて、飲んで新潟を堪能して下さい！

第35回全日本民医連糖尿病シンポジウム in 新潟

実行委員一覧

実行委員長 岡田 節朗（新潟勤医協 かえつクリニック）

副実行委員長 宮野 弥生（新潟勤医協 下越病院）

事務局 長 稲月 幸範（新潟勤医協 下越病院）

実行委員

新潟勤医協 下越病院

伊藤 牧子	今井 亜紀	太田由香里	鈴木 伸
玉津由利子	地濃 智子	長濱 秀明	西田由貴子
波多野純子	藤田 真心	本田 裕加	三井 輝美
山宮真由美	渡邊 龍一	渡辺真希子	

新潟勤医協 かえつクリニック

新木 聡子 野澤 真弓

新潟勤医協 メディカルフィットネス ウォーム

古川 理志

新潟メディカルプラン 田家みのり薬局

滝沢 尊子

新潟民医連

大熊 清

参加者のみなさまへ

1. 参加受付について

参加受付は新潟東映ホテル2階受付で12:00から行います。
地協ごとの受付ブースを設けています。

2. CDE 研修単位について

日本糖尿病療養指導士認定単位更新のための研修単位2群2単位を申請中です。
受付横にCDE 単位受付を設けます。必要な方はお越しください。

3. 宿泊について

分宿になっていますので、チェックインは各自予約されたホテルでお願いします。

4. プログラム・抄録集

プログラム・抄録集は当日ご持参ください。
ご希望の方には受付にて一部1,000円にて販売いたします。
但し部数には限りがございますので、なくなり次第販売終了となります。

5. 夕食交流会のご案内

10月26日 18:30～20:30 新潟東映ホテル 1階 宴会場「白鳥の間」にて行います。古町芸妓、日本酒飲み比べ、新潟の美味しいお米と料理に舌鼓を打ちながら、全国の仲間と楽しい夜を過ごしましょう。

6. ワークショップ企画のお知らせ

特別講師の先生方は総合受付で講師受付をお願いいたします。
参加登録時に、参加希望ワークショップを選択いただきましたが、場合によっては希望したワークショップにご参加いただけない場合もございます。
ご参加いただくワークショップは当日の参加証に掲載されています。

7. 賞のお知らせ

2018年6月25日までに演題登録いただいた中から、実行委員長賞1演題、座長賞各領域毎に選出されます。賞品は新潟の特産物や銘菓などを予定しています。

8. 飲食、喫煙について

飲食、喫煙は決められた場所で行います。
全体会場、演題発表会場、ワークショップ会場での食事はご遠慮ください。

9. 録音、撮影

撮影・録音は原則禁止です。院所報告用に必要な場合などで撮影を希望される方は演者に確認の上、撮影をお願いいたします。

10. その他

会場内では携帯電話の電源を切るか、マナーモードに設定してください。

観光案内

新潟市公式観光情報サイト

Welcome **にいがた** City
ウエルカム トウ ニイガタ シティ



新潟県公式観光情報サイト



にいがた観光ナビ



新潟シティ・グルメガイド

ようきなつた



座長・演者へのお知らせ

〈発表時間〉

分科会（口頭発表） 発表6分、質疑3分

ポスター発表 発表4分、質疑3分

〈口頭発表〉

- ◆パソコンとプロジェクターによるプレゼンテーションのみです。
- ◆ファイル形式は Microsoft Power Point 2007 もしくは 2010 でお願い致します。
- ◆Macintosh を用いて作成される場合は、相互性が損なわれる可能性があります。予め Windows PC での動作確認をお願い致します。
- ◆動画、音声の使用は円滑な運営に支障をきたすおそれがあるため、ご遠慮願います。
- ◆スライドに枚数制限はありませんが、発表時間は厳守してください。
- ◆円滑な運営のため、パワーポイントは事前登録とさせていただきます。指定期間内に発表用パワーポイントを登録してください。登録後のデータ差し替えはできませんのでご注意ください。
- ◆登録できるファイルは10MB までです。この範囲で作成してください。
- ◆個人用パソコンの持ち込みによる発表はできません。発表時のスライド操作は演者自身でお願い致します。
- ◆操作方法で解らないことがありましたら、会場内実行委員にお問い合わせください。

〈ポスター発表〉

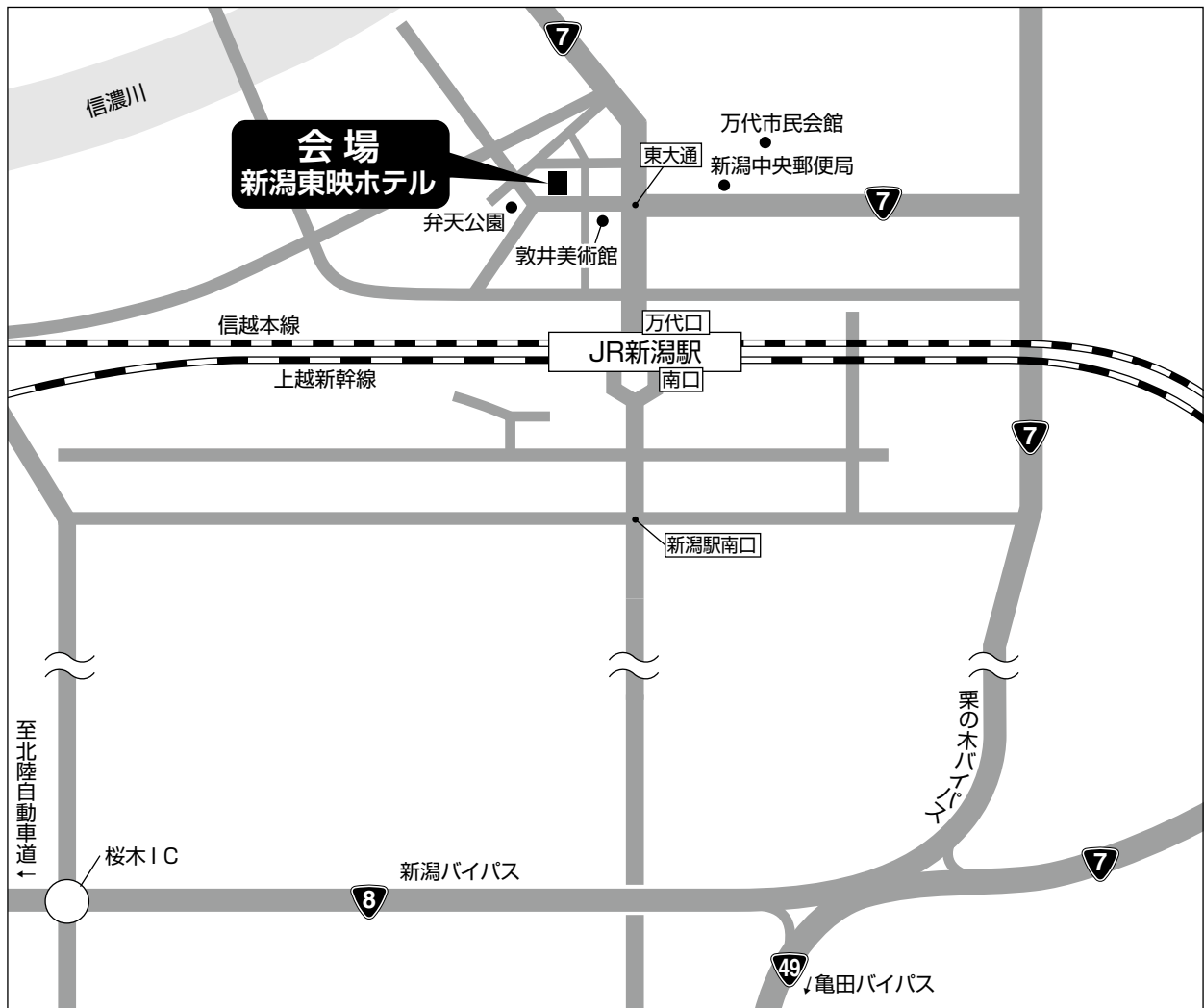
- ◆展示用パネルに発表内容を掲示してください。演題分類ごとに掲示スペースを用意します。
- ◆ポスター掲示面の大きさは幅90cm、高さ180cmです。
- ◆ポスターには、演題名、発表者、共同研究者、県連・事業所名などを記載してください。
- ◆演題番号は事務局で用意し、予め掲示します。
- ◆ポスターは2018年10月26日16時までに掲示してください。
- ◆ポスターはポスターセッション終了後、演者ご自身で撤去お願い致します。撤去されなかったポスターはシンポジウム終了後に実行委員会にて処分しますので、予めご了承ください。

演題発表 PPT 事前登録期間；2018年8月27日（月）～同年9月24日（月）

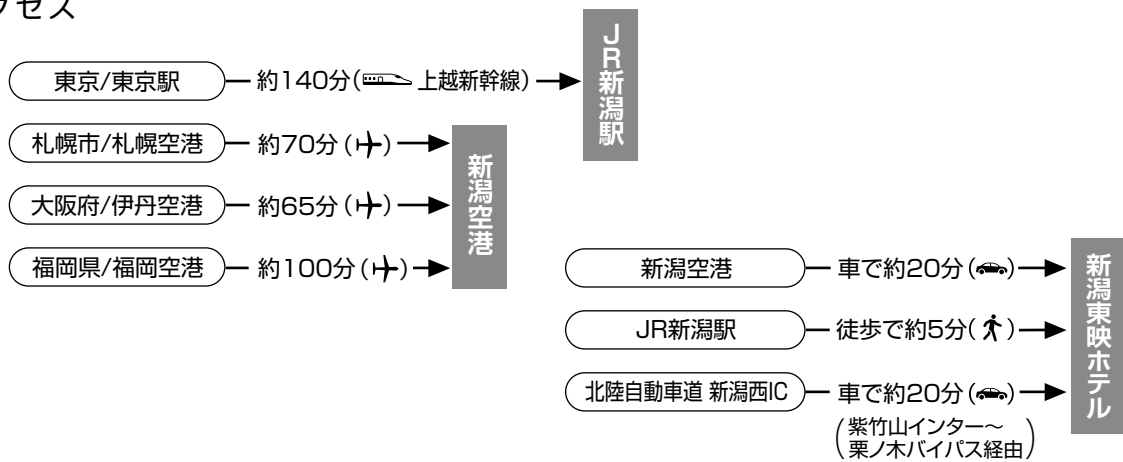
座長へのお知らせ

- ◆総合受付で座長受付をお済ませください。
- ◆口頭発表は、開始10分前までに会場内の次座長席へお越しください。
- ◆ポスター発表は、開始10分前までにポスター前にお越しください。
- ◆座長の先生には担当セッションの報告書作成および座長賞の選考をお願いいたします。
担当セッション終了後、ポスター会場内の報告ブースへ速やかにお越しください。
- ◆各セッションの進行は座長に一任いたしますが、終了時間は厳守してください。

交通案内

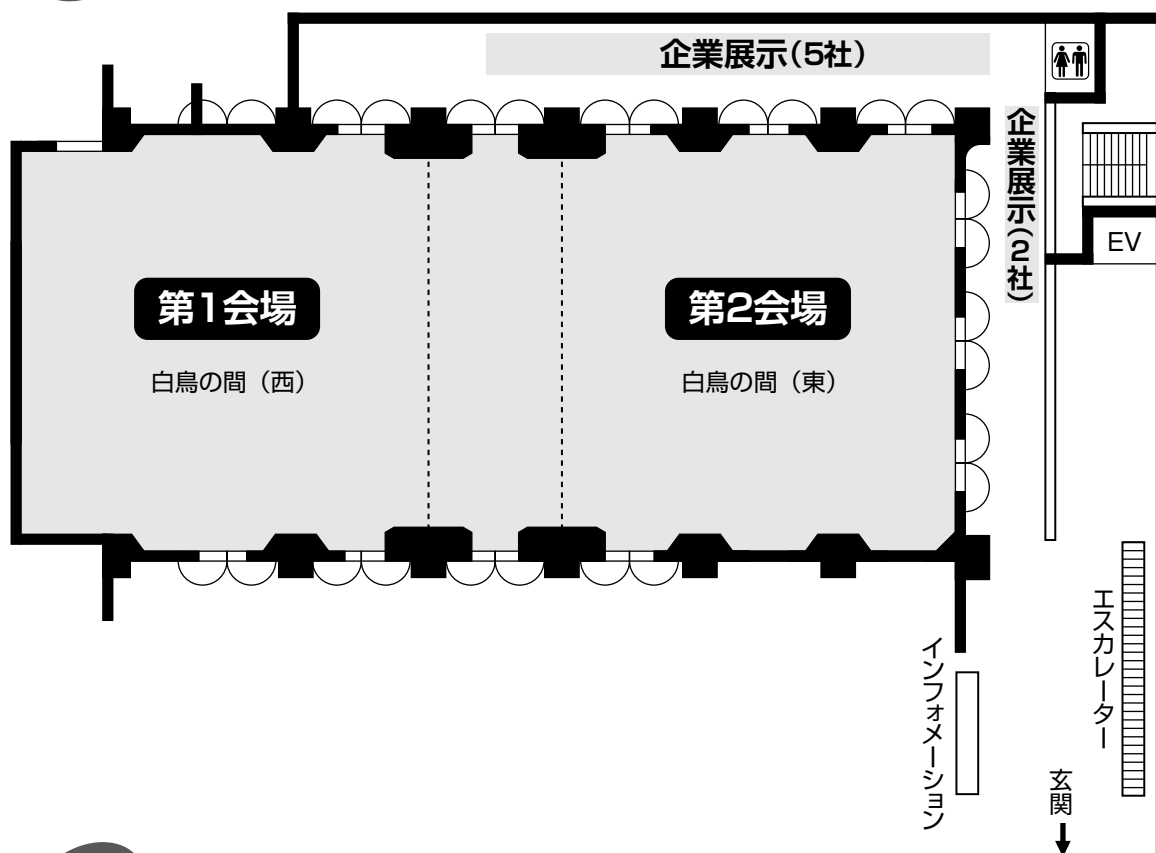


交通アクセス

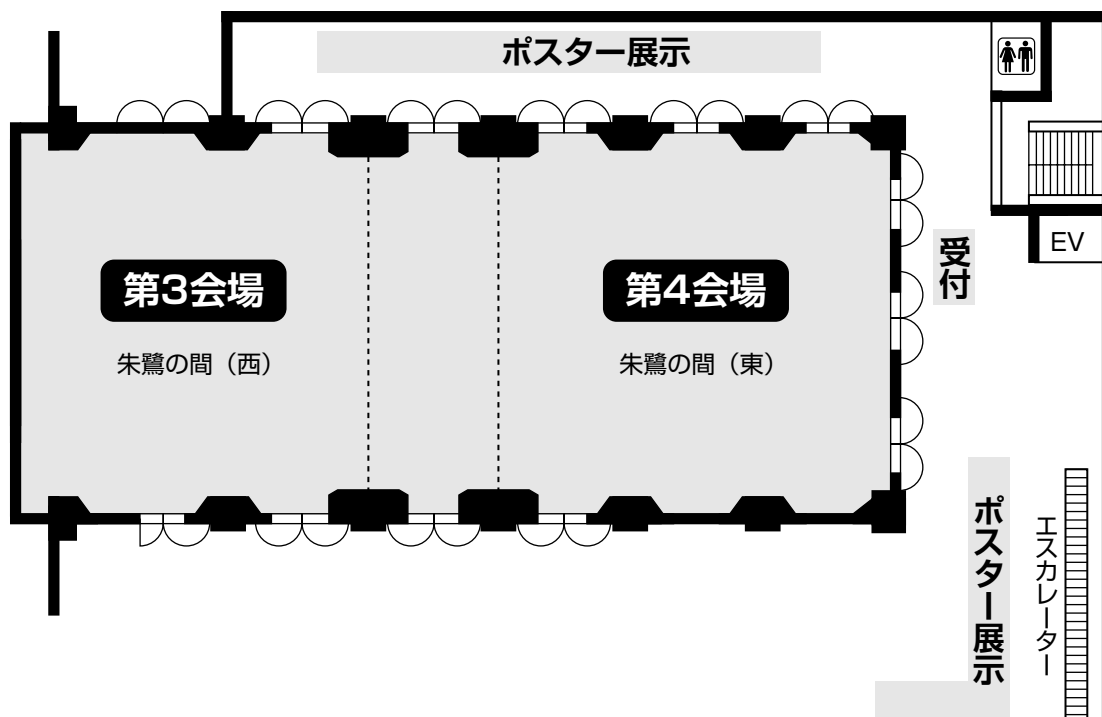


会場案内図

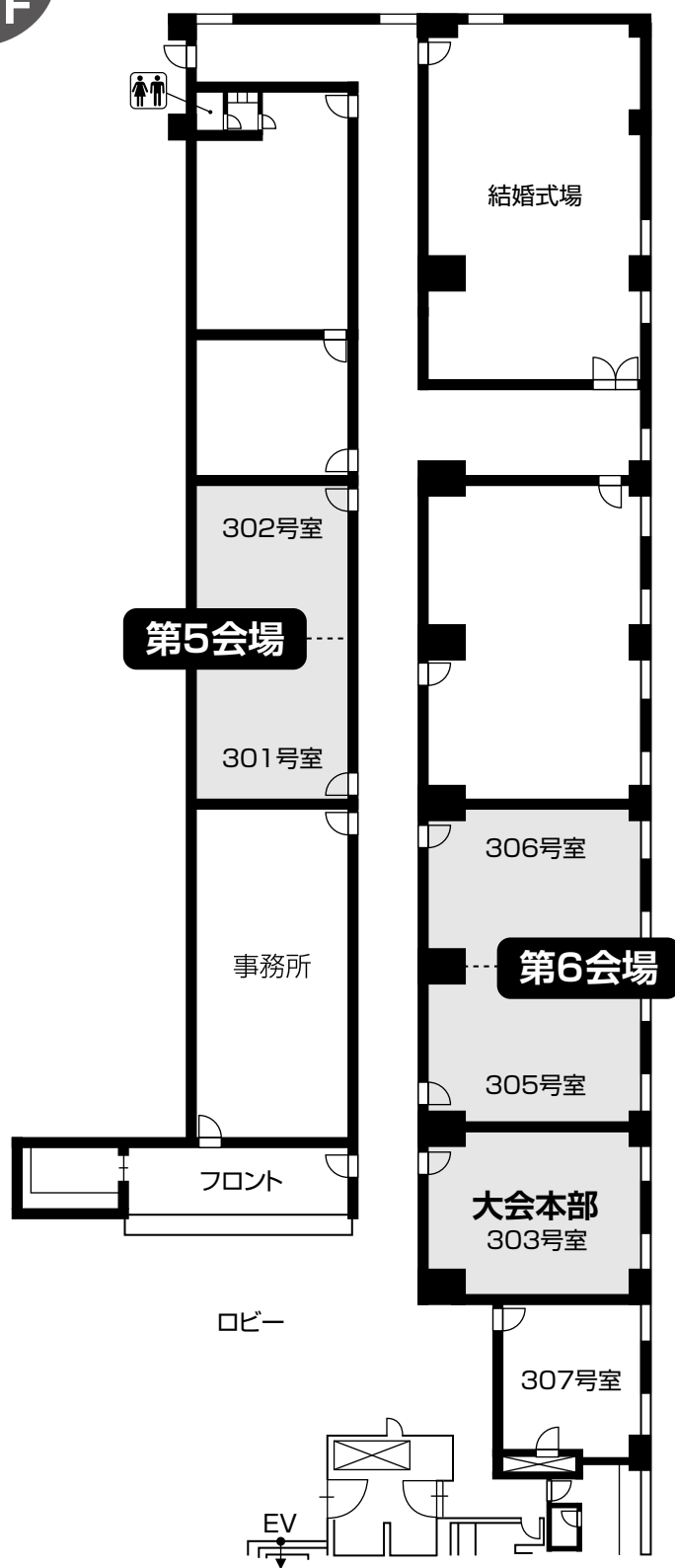
1F



2F



3F



1日目 2018年10月26日金

	第1会場 1F 白鳥の間(西)	第2会場 1F 白鳥の間(東)	第3会場 2F 朱鷺の間(西)	第4会場 2F 朱鷺の間(東)	第5会場 3F 301、302号室	第6会場 3F 305、306号室	1F ホール	2F ホール
12:00								12:00 受付
13:00			13:00～13:15 開 会 式		「民医連若年2型糖尿病 調査」と「糖尿病患者会 調査」－健康の社会的決定 要因(SDH)の視点から－ 報告： 蒔 也寸志 MIN-IREN T2DMU40 Study 研究班 研究責任者、石川民 医連 城北診療所 所長			13:00 ポ ス タ ー 展 示
			13:15～13:35 研究報告					17:10
14:00			13:35～14:45 特別講演 1 小さな一歩の大切さ ～アタカマ砂漠マラソンへの挑戦～ 講師：岡田 果純 1型糖尿病で 現在は医療機器メーカー勤務 座長：長濱 秀明 下越病院 リハビリ課					
15:00	15:00～15:50 口頭発表 1 症例報告 1 O1-1～O1-5 座長： 村瀬 明世 西淀病院 のぞと 診療所	15:00～15:50 口頭発表 2 薬物療法 O2-1～O2-5 座長： 緒方 浩美 みみはら高砂クリ ニック	15:10～15:50 口頭発表 3 チーム医療 1 O3-1～O3-4 座長： 伊古田 明美 勤医協中央病院	15:10～15:50 口頭発表 4 チーム医療 2 O4-1～O4-4 座長： 結城 由恵 西淀病院	15:00～15:50 口頭発表 5 運動療法 O5-1～O5-5 座長： 咲間 優 坂総合クリニック 運動療法センター	15:00～15:50 口頭発表 6 その他 1 O6-1～O6-5 座長： 松井 法生 富山協立病院	14:45 18:30 企 業 展 示	
16:00	16:00～17:00 口頭発表 7 症例報告 2 O7-1～O7-6 座長： 大石 史弘 八代中央クリニック	16:00～17:00 口頭発表 8 症例報告 3 O8-1～O8-6 座長： 守月 るみ子 千葉健生病院	16:00～17:00 口頭発表 9 チーム医療 3 O9-1～O9-6 座長： 宮城 調司 立川相互病院	16:00～17:00 口頭発表 10 合併症、 フットケア O10-1～O10-6 座長： 沖本 久志 坂総合病院	16:00～17:00 口頭発表 11 食事療法、 FGM O11-1～O11-6 座長： 岩下 早苗 須恵診療所	16:00～17:00 口頭発表 12 その他 2 O12-1～O12-6 座長： 大池 実以子 西淀病院		
17:00			ポスターセッション 症例報告、合併症 フットケア、食事療法、運動療法 薬物療法 チーム医療 社会経済、その他					17:10 18:00 ポ ス タ ー 発 表
18:00								ポ ス タ ー 撤 去
18:30～20:30	夕食交流会 新潟流お・も・て・な・し		☆古町芸妓 ☆日本酒飲み比べ					

2日目 2018年10月27日土

	第1会場 1F 白鳥の間(西)	第2会場 1F 白鳥の間(東)	第3会場 2F 朱鷺の間(西)	第4会場 2F 朱鷺の間(東)	第5会場 3F 301、302号室	第6会場 3F 305、306号室	屋外 やすらぎ堤
6:00							
7:00							6:30 集合 モーニング ウェル 来公園
8:00	8:00～8:30 糖尿病研究会						
9:00	8:45～10:15 ワークショップ1 薬 デバイスの特徴 を習得しよう! ～聴いて触って 考えて～ 講師: 朝倉 俊成 薬剤師、 新潟薬科大学 教授 座長: 長井 一彦 下越病院 薬剤課	8:45～10:15 ワークショップ2 運動 体験して実感! 明日から使える 運動療法のコツ 講師: 長濱 秀明 下越病院 理学療法士 池尻 真希子 かえつメディカルフィッ トネス「ウオーム」 健康運動指導士 座長: 古川 理志 かえつメディカルフィッ トネス「ウオーム」 健康運動指導士	8:45～10:15 ワークショップ3 腎症 皆で考えよう! 糖尿病患者さん への対応 講師: 近藤 照貴 長野中央病院 医師 座長: 宮野 弥生 下越病院 内科	8:45～10:15 ワークショップ4 歯科 糖尿病治療に は、まず歯周病 治療を行うべし 講師: 駒形 雄気 かえつ歯科 歯科医師 倉部 朋奈 かえつ歯科 歯科衛生士 座長: 前田 実穂子 松本協立病院 医師		8:45～10:15 ワークショップ5 栄養 みえる課題! 体験型栄養教 育の実践 講師: 高橋 洋平 上越総合病院 管理栄養士 座長: 三井 輝美 下越病院 看護師 古川 美弥子 下越病院 栄養課	
10:00							
11:00			10:30～12:00 特別講演 2 大規模臨床エビデンスに基 づく糖尿病の運動療法指導 講師: 曾根 博仁 新潟大学医学部・大学院医歯学 総合研究科 血液・内分泌・代謝 内科学分野 教授 座長: 岡田 節朗 かえつクリニック 所長				
12:00			12:00～12:30 閉会式				

プログラム

10月26日(金)

開 会 式 13:00～13:15

第3・4会場(2F 朱鷺の間)

研究報告 13:15～13:35

第3・4会場(2F 朱鷺の間)

「民医連若年2型糖尿病調査」と「糖尿病患者会調査」 ー健康の社会的決定要因(SDH)の視点からー

蒔 也寸志 MIN-IREN T2DMU40 Study 研究班 研究責任者
石川民医連 城北診療所 所長

特別講演1 13:35～14:45

第3・4会場(2F 朱鷺の間)

座長：長濱 秀明(新潟勤労者医療協会 下越病院 理学療法士)

「小さな一歩の大切さ」 ーアタカマ砂漠マラソンへの挑戦ー

岡田 果純 1型糖尿病で現在は医療機器メーカー勤務

口頭発表 15:00～17:00

15:00～15:50(口頭発表3、4のみ15:10～15:50)

口頭発表1	症例報告1	01-1～01-5	第1会場(1F 白鳥の間・西)
口頭発表2	薬物療法	02-1～02-5	第2会場(1F 白鳥の間・東)
口頭発表3	チーム医療1	03-1～03-4	第3会場(2F 朱鷺の間・西)
口頭発表4	チーム医療2	04-1～04-4	第4会場(2F 朱鷺の間・東)
口頭発表5	運動療法	05-1～05-5	第5会場(3F 301、302号室)
口頭発表6	その他1	06-1～06-5	第6会場(3F 305、306号室)

16:00～17:00

口頭発表7	症例報告2	07-1～07-6	第1会場(1F 白鳥の間・西)
口頭発表8	症例報告3	08-1～08-6	第2会場(1F 白鳥の間・東)
口頭発表9	チーム医療3	09-1～09-6	第3会場(2F 朱鷺の間・西)
口頭発表10	合併症、フットケア	010-1～010-6	第4会場(2F 朱鷺の間・東)
口頭発表11	食事療法、FGM	011-1～011-6	第5会場(3F 301、302号室)
口頭発表12	その他2	012-1～012-6	第6会場(3F 305、306号室)

ポスターセッション 17:10～18:00

ポスター会場(2F ホール)

症例報告、合併症	P1-1～P1-7
フットケア、食事療法、運動療法	P2-1～P2-7
薬物療法	P3-1～P3-7
チーム医療	P4-1～P4-7
社会経済、その他	P5-1～P5-7

夕食交流会 18:30～20:30

第1・2会場(1F 白鳥の間)

10月27日^土

モーニング Walk 6:30～7:30

弁天公園

糖尿病研究会 8:00～8:30

第1会場(1F 白鳥の間・西)

ワークショップ1 8:45～10:15

第1会場(1F 白鳥の間・西)

[薬]

座長：長井 一彦(新潟勤医協 下越病院 薬剤課)

デバイスの特徴を習得しよう！
～聴いて触って考えて～

朝倉 俊成 新潟薬科大学 薬学部 臨床薬学研究室 教授

ワークショップ2 8:45～10:15

第2会場(1F 白鳥の間・東)

[運動]

座長：古川 理志(かえつメディカルフィットネス「ウオーム」健康運動指導士)

体験して実感！ 明日から使える運動療法のコツ

長濱 秀明 新潟勤労者医療協会 下越病院 理学療法士

池尻 真希子 かえつメディカルフィットネス「ウオーム」健康運動指導士

ワークショップ3 8:45～10:15

第3会場(2F 朱鷺の間・西)

[腎症]

座長：宮野 弥生(新潟勤医協 下越病院 内科)

皆で考えよう！ 糖尿病患者さんへの対応

近藤 照貴 長野医療生活協同組合 長野中央病院 医師

ワークショップ4 8:45～10:15

第4会場(2F 朱鷺の間・東)

[歯科]

座長：前田 実穂子(中信勤医協 松本協立病院 糖尿病外来・透析センター)

糖尿病治療には、まずは歯周病治療を行うべし
～糖尿病と歯周病の関連性及び自身でできる正しい口腔ケア～

駒形 雄気 新潟勤労者医療協会 かえつ歯科 所長

倉部 朋奈 新潟勤労者医療協会 かえつ歯科 歯科衛生士

ワークショップ5 8:45～10:15

第6会場(3F 305、306号室)

[栄養]

座長：三井 輝美(新潟勤医協 下越病院 看護師)
古川 美弥子(新潟勤医協 下越病院 栄養課)

みえる課題！ 体験型栄養教育の実践

高橋 洋平 新潟厚生農業協同組合連合会 上越総合病院 管理栄養士

特別講演2 10:30～12:00

第3、4会場(2F 朱鷺の間)

座長：岡田 節朗(新潟勤労者医療協会 かえつクリニック 所長)

大規模臨床エビデンスに基づく糖尿病の運動療法指導

曾根 博仁 新潟大学医学部・大学院医歯学総合研究科 血液・内分泌・代謝内科学分野 教授

閉会式 12:00～12:30

第3、4会場(2F 朱鷺の間)

口頭発表 プログラム

10月26日(金)

口頭発表1 15:00～15:50

第1会場(1F 白鳥の間・西)

[症例報告1]

座長：村瀬 明世(西淀病院 のぞと診療所)

O1-1 I型糖尿病におけるインスリン・ポンプ療法とパーソナルCGMの経験 ～FGM vs SAP～

熊本民医連 大石 史弘(医師)
八代中央クリニック 内科

O1-2 “できる”をさがす 無症候性低血糖の早期発見をめざす

大阪民医連 西田 佳子(看護師)
医療生協かわち野 東大阪生協病院 外来

O1-3 糖尿病重症患者の事例を通して合併症に対する指導とSDHの視点を学ぶ

大阪民医連 佐藤 あゆみ(看護師)
西淀病院

O1-4 健康の社会的決定要因(SDH)の視点から考えさせられた 1型糖尿病発症患者への支援

福岡・佐賀民医連 十時 綾子(看護師)
公益財団法人健和会 健和会大手町病院 看護部

O1-5 入退院を繰り返す患者とSDHとの関連性についての報告 ～壮年期の糖尿病患者症例におけるSDHの実際～

大阪民医連 廣野 真実(看護師)
淀川勤労者厚生協会 西淀病院 内科

口頭発表2 15:00～15:50

第2会場(1F 白鳥の間・東)

[薬物療法]

座長：緒方 浩美(みみはら高砂クリニック)

O2-1 高齢者自己注射療法の実態と工夫

千葉民医連 守月 るみ子(医師)
千葉健生病院

O2-2 インスリン治療はリリーフか 敗戦処理か

岐阜民医連 横山 道江(医師)
岐阜勤労者医療協会 みどり病院 内科

O2-3 リブレ[®]併用のSAPに切り替えた1型糖尿病3例の経験

愛知民医連 我那覇 美恵(看護師)
医療法人名南会 名南病院

02-4 当院の外来透析患者におけるデュラグルチドの使用成績と有効・無効・中止症例の検討

鹿児島民医連 吉留 正次(医師)
鹿児島生協病院 内科

02-5 当院におけるエンパグリフロジンの使用状況と副作用対策

富山民医連 有賀 絵里(薬剤師)
富山協立病院 薬剤科

口頭発表3 15:10～15:50

第3会場(2F 朱鷺の間・西)

[チーム医療1]

座長:伊古田 明美(勤医協中央病院)

03-1 定期問診の取り組みと今後の課題

宮城民医連 笹森 波(看護師)
長町病院 外来

03-2 糖尿病教育入院における多職種によるカンファレンスの課題

長野民医連 牧内 和子(看護師)
社会医療法人健和会 健和会病院 成人外来

03-3 糖尿病外来教室の取り組み ～Enjoy チーム医療～

愛知民医連 辻 朗彦(検査技師)
北医療生協北病院 検査科

03-4 みんなでつくる!「楽しくやせる教室」の取り組みと成果

千葉民医連 福島 彩香(保健師)
千葉勤医協 二和ふれあいクリニック

口頭発表4 15:10～15:50

第4会場(2F 朱鷺の間・東)

[チーム医療2]

座長:結城 由恵(西淀病院)

04-1 臨床研究 持続血糖測定器(FreeStyle リブレ Pro)活用による療養指導の効果(第1弾)

岐阜民医連 亀山 聡美(薬剤師)
岐阜勤労者医療協会 みどり病院

04-2 外来と保険薬局との連携 ～自宅訪問による情報共有～

宮城民医連 伊藤 美砂(看護師)
坂総合クリニック

04-3 チームで支える認知症患者の療養支援

宮城民医連 志賀 綾子(看護師)
長町病院 外来

O4-4 グループホームへ入所する認知症合併糖尿病患者の退院支援に必要な 病棟看護師の役割

宮城民医連

星 あすか(看護師)

宮城厚生協会 坂総合病院 糖代謝科

口頭発表5 15:00～15:50

第5会場(3F 301、302号室)

[運動療法]

座長：咲間 優(坂総合クリニック 運動療法センター)

O5-1 当院の通所リハビリテーションが糖尿病高齢者の運動療法によいと思うところ

宮城民医連

工藤 雄一郎(リハビリ)

宮城厚生協会 坂総合病院クリニック 通所リハビリテーション

O5-2 低強度運動が糖尿病患者の血糖値に及ぼす影響 ―第2報―

宮城民医連

咲間 優(健康運動指導士)

坂総合クリニック 運動療法センター

O5-3 運動療法を継続している慢性疾患患者のモチベーションの検討

宮城民医連

我満 琴絵(健康運動指導士)

坂総合クリニック 運動療法センター

O5-4 2型糖尿病患者における長期間の運動療法の継続が体力に及ぼす影響

新潟民医連

高橋 良太(健康運動指導士)

かえつクリニック メディカルフィットネス「ウオーム」

O5-5 当院トレーニング室利用者におけるサルコペニアの調査

大阪民医連

春川 智弘(健康運動指導士)

耳原鳳クリニック

口頭発表6 15:00～15:50

第6会場(3F 305、306号室)

[その他1]

座長：松井 法生(富山協立病院)

O6-1 当院医療法人内における看護師を対象とした糖尿病看護講義の取り組みとその評価

岡山民医連

下須賀 香奈子(看護師)

倉敷医療生活協同組合 総合病院 水島協同病院 看護部

O6-2 PAID 分析からみえたもの

長野民医連

塚田 栞里(看護師)

松本協立病院

O6-3 初共催！クリニック×行政＝糖尿病予防セミナー2017 ～糖尿病専門外来が担う HPH 活動に取り組んで～

新潟民医連

古川 理志(健康運動指導士)

かえつクリニック メディカルフィットネス・ウオーム

06-4 糖尿病透析予防プログラムの取り組みから見てきたこと

東京民医連 草野 早苗（看護師）
みさと健和クリニック

06-5 創立50年を経過した糖尿病患者会みのり会の現状と今後の展望 第1報

石川民医連 山下 あゆみ（管理栄養士）
城北診療所

口頭発表7 16:00～17:00

第1会場（1F 白鳥の間・西）

[症例報告2]

座長：大石 史弘（八代中央クリニック）

07-1 糖尿病自己管理が困難な認知症患者との関わり

岐阜民医連 疋田 奈津美（看護師）
みどり病院 看護課

07-2 糖尿病管理が困難な患者を地域で支援するための外来看護師の役割とは

山梨民医連 大桐 仁美（看護師）
巨摩共立病院 外来

07-3 1型糖尿病を持つ高齢者の生活を支える外来看護師の役割

北海道民医連 笹川 恭子（看護師）
勤医協中央病院 外来

07-4 協力者不在の高齢者への治療援助

岐阜民医連 坂根 国子（看護師）
すこやか診療所 透析センター

07-5 外来でインスリン見守りをしている患者との関わりを通して ～雨にも負けず風にも負けず～

大阪民医連 平野 梓（看護師）
のざと診療所 内科

07-6 足壊疽、切断に至った患者さんから学んだ事

東京民医連 中村 美和子（看護師）
立川相互ふれあいクリニック 代謝内科

口頭発表8 16:00～17:00

第2会場（1F 白鳥の間・東）

[症例報告3]

座長：守月 るみ子（千葉健生病院）

08-1 医療者の積極的介入により著しい改善を認めた 慢性C型肝炎合併2型糖尿病患者の1例

大阪民医連 北代 紗也（医師）
西淀病院 糖尿病内科

08-2 糖尿病外来患者の薬物依存を考える

大阪民医連 川口 真弓(医師)
耳原総合病院 内科

08-3 腹腔鏡下胃スリーブ手術を受けた高度肥満2型糖尿病の1例

愛知民医連 長江 典彦(医師)
名南病院

08-4 抗血管新生薬(ルセンティス：一般名 ラニビズマム)使用前後の視覚に関連した QOL 尺度の変化の検討

石川民医連 堀口 泰子(検査技師)
城北病院 検査部

08-5 ソフトドリンクケトーシスを契機に血液透析を要した非外傷性横紋筋融解症を合併した2型糖尿病の一例

石川民医連 岩本 和恵(医師)
城北病院 内科

08-6 血糖コントロール不良の患者に発症した重症肺炎と ARDS の一例

大阪民医連 櫻井 史歩(医師)
耳原総合病院 内科

口頭発表9 16:00～17:00

第3会場(2F 朱鷺の間・西)

[チーム医療3]

座長：宮城 調司(立川相互病院)

09-1 外来糖尿病透析予防指導開始から3年・中間報告 ～減塩を中心とした指導を試みて～

愛知民医連 山名 紗織(管理栄養士)
名南病院 栄養課

09-2 入院中にカーボカウントを導入出来た症例からチーム医療を考える

宮城民医連 鎌田 弘美(管理栄養士)
宮城厚生協会 坂総合病院

09-3 糖尿病カンファレンスにおけるチーム医療

熊本民医連 有蘭 可奈子(薬剤師)
くわみず病院

09-4 急性期 DPC 病院における糖尿病医療の役割についての考察

北海道民医連 伊古田 明美(医師)
勤医協中央病院

09-5 糖尿病療養指導の向上を目指した患者心理の学習会の効果

石川民医連 八田 早苗(看護師)
石川勤労者医療協会 城北病院

O9-6 院内糖尿病グループ主催の学習会を振り返って
～頼りになる人材育成を目指して～

大阪民医連 古谷 香織(看護師)
コープおおさか病院 4階病棟

口頭発表 10 16:00～17:00

第4会場(2F 朱鷺の間・東)

[合併症、フットケア]

座長：沖本 久志(坂総合病院)

O10-1 頭部MRIにて典型的な糖尿病性舞踏病の所見を示した2症例

大阪民医連 大槻 朋子(医師)
西淀病院 内科

O10-2 長期放置例における血糖コントロール開始後の視力悪化をどう防ぐか
ーフェノフィブラートの糖尿病網膜症・黄斑浮腫改善効果についてー

山口民医連 上野 八重子(医師)
宇部協立病院

O10-3 SGLT2阻害剤投与後の腎機能、尿中微量アルブミン排泄の変化
ー病期別の検討ー

長野民医連 近藤 照貴(医師)
長野中央病院 内科

O10-4 毎日足を見てみよう！！ ～フットケアの取り組み～

大阪民医連 与儀 梢(看護師)
コープおおさか病院 第一外来

O10-5 当院における外来フットケアの現状と今後への展望

長野民医連 下澤 樹理(看護師)
中信勤医協松本協立病院 内科外来

O10-6 糖尿病患者のフットケア外来への誘導の試み

北海道民医連 小田 隆子(看護師)
勤医協中央病院 外来

口頭発表 11 16:00～17:00

第5会場(3F 301、302号室)

[食事療法、FGM]

座長：岩下 早苗(須恵診療所)

O11-1 糖尿病教育入院を複数回受けたのにも関わらず糖尿病壊疽を繰り返した症例

新潟民医連 白又 美里(管理栄養士)
下越病院 栄養課

O11-2 時間栄養学を基礎に食べ方で糖尿病の改善をめざす

大阪民医連 染原 剛(管理栄養士)
みみはら高砂クリニック

O11-3 血糖管理アプリ等を導入したカーボカウント指導の実践

北海道民医連 岩崎 唯(管理栄養士)
勤医協中央病院 栄養科

O11-4 フラッシュグルコースモニタリングシステム(FGM)を用いた 看護師＝栄養士の協働による療養指導の実践報告

山口民医連 斉藤 しほ(看護師)
宇部協立病院

O11-5 当院での FreeStyle リブレ使用状況と HbA1c の改善効果

長野民医連 山崎 麻紀(検査技師)
長野中央病院 臨床検査科

O11-6 持続グルコース測定システム、リブレプロ[®]、リブレ[®]の管理について

愛知民医連 青木 理恵子(検査技師)
医療法人名南会 名南病院

口頭発表 12 16:00～17:00

第6会場(3F 305、306号室)

[その他2]

座長：大池 実以子(西淀病院)

O12-1 当院における高カロリー輸液施行時の対応について

大阪民医連 松廣 有紀(医師)
耳原総合病院 内科

O12-2 地域介護施設の自己注射受け入れ状況

大阪民医連 結城 由恵(医師)
淀川勤労者厚生協会附属西淀病院 糖尿病代謝内科

O12-3 インスリン療法中後期高齢2型糖尿病の CGM による血糖変動の解析 ーカテゴリー分類と治療法別低血糖リスクー

長野民医連 青木 由貴子(医師)
長野中央病院 内科

O12-4 糖尿病1泊教育入院後の外来フォローを試みて ～1年を振り返って～

長野民医連 石堂 節子(看護師)
長野医療生活協同組合 長野中央病院 外来

O12-5 当院における糖尿病高齢者の総合機能評価と血糖コントロール

北海道民医連 佐久間 文子(医師)
道北勤医協 旭川医院

O12-6 ヘルスリテラシーによる高齢者総合機能評価 CGA の3年間の変化

北海道民医連 横山 ルミ(看護師)
道北勤医協 一条クリニック

ポスターセッション プログラム

10月26日(金) ポスター会場(2F ホール)

ポスター発表1 17:10～18:00

[症例報告、合併症]

座長：近藤 照貴(長野中央病院)

P1-1 訪問栄養指導ははじめました！

京都民医連 岩瀬 香子(管理栄養士)
京都保健会 吉祥院病院 栄養課

P1-2 その人と真摯に向き合う中断訪問活動を ～無料低額診療事業利用者の通院中断死亡事例をうけて～

京都民医連 岡村 泰彦(事務)
京都保健会 吉祥院病院 医事課

P1-3 5年間、糖尿病治療を中断 (左下肢化膿性脊髄炎を発症した事例を通して)

新潟民医連 伊藤 牧子(看護師)
下越病院 4階東病棟

P1-4 糖尿病教育入院を通して (自己理解による解釈でコントロール不良な事例を通して)

新潟民医連 波多野 純子(看護師)
下越病院 4階東病棟

P1-5 おっと、まさかの認知症！ ～糖尿病教育入院中に判明した認知症患者の検討

千葉民医連 池田 美佳(医師)
船橋二和病院 内科

P1-6 1型糖尿病患者における骨密度・骨代謝の評価

大阪民医連 村瀬 明世(医師)
淀川勤労者厚生協会 西淀病院・のぞと診療所 糖尿病・代謝内科

P1-7 DPP-4阻害薬によると思われる水疱性類天疱瘡の一事例

新潟民医連 長井 一彦(薬剤師)
下越病院 薬剤課

ポスター発表2 17:10～18:00

[フットケア、食事療法、運動療法]

座長：蒔 也寸志(城北診療所)

P2-1 社会的孤立をした独居患者の家庭訪問から、フットケア外来に繋がった1例

石川民医連 岡島 千晶(保健師)
城北診療所

P2-2 透析室フット観察導入による足病変改善への展望
ーフット観察導入1年半から見てきたことー

新潟民医連 渡邊 将秀(看護師)
下越病院 透析室

P2-3 持続血糖測定器(FreeStyle リブレ Pro)を使用した患者の食事記録からの検討

岐阜民医連 日置 真穂(管理栄養士)
医療法人岐阜勤労者医療協会 みどり病院

P2-4 診察の待ち時間を活用した食生活改善の啓蒙活動

宮城民医連 鈴木 亜紀(管理栄養士)
宮城厚生協会長町病院 食養室

P2-5 不規則運転手士として働く糖尿病患者の生活スタイルに合わせた管理栄養の関わり

石川民医連 西鍛治 遥(管理栄養士)
城北診療所

P2-6 食事療法が必要な患者と、その家族の想いを尊重した一例

長野民医連 佐藤 学(管理栄養士)
長野中央病院 栄養科

P2-7 『動いて血糖さげようよ』外来での“お薬減らそうキャンペーン”の中間報告

大阪民医連 緒方 浩美(医師)
みみはら高砂クリニック

ポスター発表3 17:10~18:00

[薬物療法]

座長：岩崎 桂子(耳原総合病院)

P3-1 イブラグリフロジン投与患者における有効性、安全性の評価

山口民医連 津久井 直子(薬剤師)
宇部協立病院 薬剤科

P3-2 センサー付インスリンポンプ療法のまとめ

長野民医連 前田 実穂子(医師)
松本協立病院 内科

P3-3 新規糖尿病患者における初回糖尿病治療薬調査結果の報告

千葉民医連 吉野 禎章(薬剤師)
船橋二和病院 薬剤科

P3-4 どうやったら伝わる？ 薬の効き方
～分かりやすい糖尿病教室を目指して～

千葉民医連 松本 宜子(薬剤師)
船橋二和病院 糖尿病チーム

P3-5 インスリン療法患者へのアンケートからみえた製剤および
針の扱いの問題点についての対策

千葉民医連 左座 真里依(薬剤師)
すこやか薬局

P3-6 2型糖尿病患者における GLP-1 受容体作動薬デュラグルチド0.75mg
週1回製剤の有効性と安全性の検討

大阪民医連 玉城 由実加(薬剤師)
一般社団法人 大阪ファルマプラン あおぞら薬局

P3-7 当院における SGLT2 阻害薬の使用実態調査

大阪民医連 箱崎 菜都実(薬剤師)
淀川勤労者厚生協会 西淀病院 薬局

ポスター発表4 17:10～18:00

[チーム医療]

座長：大槻 朋子(西淀病院)

P4-1 外来における初診時教育として「はじめての糖尿病」を行ってみて

長野民医連 栗津原 周弥(看護師)
松本協立病院 外来

P4-2 糖尿病教育パスの実践を通して
～導入後の振り返りと今後の課題～

鹿児島民医連 小野 莉奈(看護師)
鹿児島生協病院 3階西病棟 糖尿病内科・神経内科・眼科

P4-3 小さな8人の診療所での糖尿病管理と教育活動《第2報》

福岡・佐賀民医連 岩下 早苗(医師)
千鳥橋病院附属 須恵診療所

P4-4 津生協病院におけるチーム医療としての糖尿病透析予防外来での多職種連携

三重民医連 加藤 晶俊(医師)
津生協病院

P4-5 半世紀を経過した糖尿病患者会「みのり会」の現状と展望
—職員と会員へのアンケート調査から課題を考える—

石川民医連 大川 希久子(事務)
石川勤労者医療協会城北診療所 診療サービス課

P4-6 人権を尊重する地域包括ケア
MCI を生きる高齢糖尿病患者の事例を通して診療所の CDE の役割を考える

長野民医連 池田 まさ子(看護師)
山形協立診療所 外来

P4-7 訪問看護による多職種連携により社会参加を支援した一症例

富山民医連 長谷川 俊一(リハビリ)
富山協立病院 リハビリテーション科

P5-1 社会的孤立はなかったが、受診・インスリン中断が防げなかった事例からの学び

長野民医連 山本 しのぶ（看護師）
南信勤医協 諏訪共立病院

P5-2 安心して医療を受け続けられる為に
～1型糖尿病患者の1事例からの考察～

長野民医連 太田 みちよ（MSW）
南信勤医協 諏訪共立病院

P5-3 HbA1c：10%以上が続く患者の病状と背景

富山民医連 松井 法生（医師）
富山協立病院

P5-4 糖尿病診療の“今”を知る

大阪民医連 岡本 由佳（看護師）
耳原総合病院 13階病棟

P5-5 従来の糖尿病教育の見直し
～わたしたちがやれる糖尿病教育～

千葉民医連 松本 美緒（看護師）
船橋二和病院 地域包括ケア病棟

P5-6 薬局における系統的な患者指導システム構築と病薬連携

岐阜民医連 中澤 千寿（薬剤師）
ファルマネットぎふ しいのみセンター薬局

P5-7 糖尿病ケアチームにおける地域への糖尿病啓蒙活動の試み

東京民医連 松岡 美緒（看護師）
立川相互病院 看護部

特別講演1

10月26日(金) 13:35～14:45 (第3・4会場)

特別講演2

10月27日(土) 10:30～12:00 (第3・4会場)

研究報告

10月26日(金) 13:15～13:35 (第3・4会場)

小さな一歩の大きさ —アタカマ砂漠マラソンへの挑戦—

岡田 果純

1型糖尿病で現在は医療機器メーカー勤務

私は1999年6月、当時小学校3年生の時に1型糖尿病を発症し、今年で19年を迎えました。新潟県妙高市出身で、当時は病院で初めての小児糖尿病だと言われました。奇跡的に小児科の内分泌を専門とされている先生に出会い、インスリン強化療法をすることができ、糖尿病の子供たちが集まるサマーキャンプにも参加させてもらいました。同じ病気の友達ができたことで病気への向き合い方が大きく変わり、人前での注射をすることができるようになりました。

大学に進学後、海外に興味を持っていた中で出会ったのが砂漠マラソンでした。1週間で250km。平均標高2,000mの南米チリのアタカマ砂漠を走ります。大会から支給されるのは水とお湯とテントのみ。着替え、食料、薬は自分で持って走ります。過酷なこのレースに「面白そう!」と飛び込みました。それが2013年3月のことです。

このマラソンの挑戦は準備がとにかく大変でした。インスリン保冷対策、血糖値のコントロール、食料、トレーニング方法…初めてのことばかりでしたが、周りにはヒントを持っている方がたくさんいました。ヒントを寄せ集め、自分にできそうなことを重ねていきました。仲間と協賛を集めたりトレーニングをしていましたが、自分が250kmを走り切るイメージは全くできていませんでした。しかし、「病気だからできない」ということは全く考えませんでした。

マラソン自体は辛いことがあったはずですが、今は楽しかった記憶の方が残っています。世界中のランナーと友達になり、見たこともない景色を駆け抜けた7日間は私にとってかけがえのないものとなりました。

今回いただいたお時間の中では、具体的にどんな準備をしたのか、レース中はどんな景色が広がっていたのか、走りきれた理由は何なのか、病気とはどのように向き合ってきたのかということをお話させていただければと思っています。

ワークショップ

10月27日(土) 8:45～10:15

1 [薬] (第1会場)

デバイスの特徴を習得しよう！
～聴いて触って考えて～

2 [運動] (第2会場)

体験して実感！ 明日から使える運動療法のコツ

3 [腎症] (第3会場)

皆で考えよう！ 糖尿病患者さんへの対応

4 [歯科] (第4会場)

糖尿病治療には、まずは歯周病治療を行うべし
～糖尿病と歯周病の関連性及び自身でできる
正しい口腔ケア～

5 [栄養] (第6会場)

みえる課題！ 体験型栄養教育の実践

デバイスの特徴を習得しよう！ ～聴いて触って考えて～

講師：朝倉 俊成(新潟薬科大学 薬学部 臨床薬学研究室 教授)

座長：長井 一彦(新潟勤医協 下越病院 薬剤課)

インスリン製剤や GLP-1 受容体作動薬は、劇薬指定の注射剤です。臨床では、このハイリスク薬を薬の使用に不慣れな患者さんが自己注射しています。安全かつ有効に自己注射を実践・継続していただくには、医薬品や注入器・針などの「モノ」の特徴を知っておく必要があります。今回、患者さんに自己注射を説明する際に用いる「患者説明用書」に記載されている手順や内容をもとに、その背景(理由)や行間の読み方をご紹介します。限られた時間ですが、皆様と実践形式で確認していきましょう。

主な確認内容は以下の通りです。

- なぜ、懸濁製剤の残量が12単位以下だと使用しない方が良いのか
- なぜ、単位設定ダイヤルが回らなくなることがあるのか
- なぜ、「空打ち」が必要なのか
- なぜ、針は毎回変える必要があるのか
- なぜ、4mm針はつままなくともよいのか
- なぜ、針の穿刺は垂直の方が良いのか
- なぜ、注入後、注入ボタンを押したまま10数えるのか
- なぜ、保管時にデバイスに針を刺したままにしてはいけないのか
- なぜ、注射後にキャップを閉めることが大事なのか
- なぜ、使用・未使用でインスリン製剤保管時の温度管理が異なるのか
- なぜ、注入器を凍結や高温環境に置いてはいけないのか
- どうやって各製剤のデバイスを識別すればよいのか

口 頭 発 表

10月26日(金) 15:00～15:50 (口頭発表3、4のみ 15:10～15:50)

口頭発表1	症例報告1	01-1～01-5	第1会場(1F 白鳥の間・西)
口頭発表2	薬物療法	02-1～02-5	第2会場(1F 白鳥の間・東)
口頭発表3	チーム医療1	03-1～03-4	第3会場(2F 朱鷺の間・西)
口頭発表4	チーム医療2	04-1～04-4	第4会場(2F 朱鷺の間・東)
口頭発表5	運動療法	05-1～05-5	第5会場(3F 301、302号室)
口頭発表6	その他1	06-1～06-5	第6会場(3F 305、306号室)

10月26日(金) 16:00～17:00

口頭発表7	症例報告2	07-1～07-6	第1会場(1F 白鳥の間・西)
口頭発表8	症例報告3	08-1～08-6	第2会場(1F 白鳥の間・東)
口頭発表9	チーム医療3	09-1～09-6	第3会場(2F 朱鷺の間・西)
口頭発表10	合併症、フットケア	010-1～010-6	第4会場(2F 朱鷺の間・東)
口頭発表11	食事療法、FGM	011-1～011-6	第5会場(3F 301、302号室)
口頭発表12	その他2	012-1～012-6	第6会場(3F 305、306号室)

I 型糖尿病におけるインスリン・ポンプ療法とパーソナル CGM の経験 ～ FGM vs SAP ～

熊本民医連

○大石 史弘(医師)

八代中央クリニック 内科

【症例】60歳、男性、医師、診療所勤務。

【現病歴】2016年10月30日(日)、由布登山(標高差700m)で異常に辛かった。月、火、水は通常勤務、水夜は口渇・多飲・多尿。11月3日(祝日)午後39.2℃、受診し、イ抗原陰性。翌金朝には解熱、倦怠感があったが、出勤。40数名診察し、終了時37.8℃、食欲なし。午後5時の夜診開始時38.5℃、午後8時過ぎまで20数名診察後帰宅、心窩部痛と悪心が出現。翌日予定の東京出張は「旅先で死ぬかもしれない」とキャンセル。同夜も症状改善せず。土は終日臥床。11月6日(日)は、朝から熱ないが、食欲なく、倦怠・悪心・心窩部痛悪化。立っているも辛く、呼気臭の異常に気付いた。昼受診し、入院。

【入院時現症】意識清明、血圧126/80 mmHg、脈拍57bpm、整、体温36.4℃。

【主な検査成績】尿糖4+、ケトン4+、s-Amy 453 ↑、BS 455mg/dl ↑↑、CRP 5.01 mg/dl、HbA1c 7.3% ↑、尿中 Alb・Cr 11.9mg/g、血液ガス：pH 7.22、HCO3 9.4、BE -18.3、CPR <= 0.03ng/ml (0.94-2.8)、CPI 0.0 (0.8以上)、抗 GAD 抗体 < 5.0 U/ml、両側眼底：正常。

【経過】インスリン持続静注(CIII)および補液と飲水により、入院翌日には血糖コントロールは安定し、食事とインスリン頻回注射(MDI)、4日目からインスリン・ポンプ(ミニメド620G[®])を開始した。8日目にポンプ+SMBGで退院し、同日夜間外来から勤務開始。2017年3月からFGM(リブレ[®]；保険適応前、7月から保険適応)、同年7月からSAP(保険適応)開始した。現在は、SAPを主として時々FGM(自費)を併用しながら管理しており、HbA1c 6.3%前後で概ね良好なコントロールが得られている。患者本人にとって、パーソナル持続血糖モニタリング(CGM)は「知らなかった方が幸せだったが、知ってしまったらやめられない」というのが導入当初の率直な印象であった。以上の経験から、インスリン・ポンプ療法の有用性と問題点、FGMとSAPそれぞれの特徴と問題点について報告する。

“できる”をさがす 無症候性低血糖の早期発見をめざす

大阪民医連

○西田 佳子(看護師)

医療生協かわち野 東大阪生協病院 外来

【目的】私たちの病院の位置する地域は中小零細企業が多く、年収が200万円に満たない世帯が多くある。病院の周辺にも低家賃住宅が多く高齢の方も多く生活されている家族形態は様々で対象となる方の理解力やセルフケア能力も様々である。理解力に関しては信憑性に欠けセルフケア能力が低い方を対象に、外来でできることはないだろうか？できないことに注目するのではなく、QOLの維持向上を目指して“その人のできることは何か”を探しながら支援を行った。

【対象】80歳代女性、ブリットル型の糖尿病、認知症(HDR:14)。発達障害のある息子と二人暮らし。

2005年 60歳代で糖尿病を発症し自宅近医でインスリン導入をおこなう。

2008年 膝関節痛にて当院受診し糖尿病も当院でのフォローなる。

2017年 年明けより著しい低血糖をおこし救急搬送となることが急に増えてきた。

持続血糖測定デバイスを導入(フリースタイル・リブレ)。

【結果】インスリンの過剰施注防止と状態確認のため本人の同意を得てインスリンと内服薬は外来管理とした。また持続血糖測定デバイスを導入したことにより、血糖値の状態のモニタリングが容易におこなうことができた。低血糖の早期発見が可能となり早期に低血糖時の対応が可能となったため、救急搬送されることも殆どなくなった。

【考察・まとめ】持続血糖測定デバイスを導入することにより、低血糖の早期発見は容易となり症状の出現前に対策を行うことができるようになった。また個別性に応じた外来看護を継続して実践することで、その人に必要な治療を行うことが可能となり、再入院や疾病の重篤化を予防できるのではないかと考える。そしてQOLの維持向上に視点をおき外来看護の役割を発揮していこうと考える。

【倫理的配慮】発表にあたり治療・看護に不利益が生じないこと、個人が特定できないこと、データーは目的以外使用しないことを遵守した。

ポスター発表

10月26日(金) 17:10～18:00 (2F ホール)

症例報告、合併症	P1-1～P1-7
フットケア、食事療法、運動療法	P2-1～P2-7
薬物療法	P3-1～P3-7
チーム医療	P4-1～P4-7
社会経済、その他	P5-1～P5-7

P1-1

訪問栄養指導ははじめました！

京都民医連

○岩瀬 香子(管理栄養士)

京都保健会 吉祥院病院 栄養課

【目的】当院は、全床地域包括ケア病床のため、多くの患者さんの退院先は自宅となる。そのため、退院後は、在宅医療部の往診管理となる方も多く、病棟との連携が欠かせない。栄養管理においても同じで、病院所属の管理栄養士が、訪問栄養指導を行い、在宅へ戻っても入院時の栄養状態を維持できるようにサポートしている。

症例報告も含めて、今後の訪問栄養指導の必要性和、他職種への認知度を高める。

【症例1】82才、男性、2型糖尿病、独居。認知症が進行し、インスリン注射の打ち忘れが頻発、高血糖が続くため入院となった。退院後の食事は、ヘルパーの調理援助とデイサービスの利用となり、インスリン注射も訪問看護とデイサービス管理となった。しかし、高血糖が続いていたため、食事内容の改善目的にて、栄養指導の依頼が出された。調理担当のヘルパー同席にて、指示カロリーにそった献立の指導を行い、血糖値の改善がみられた。

【症例2】87才、女性、2型糖尿病、娘と2人暮らし。食事摂取量が低下し体重が減少、さらに高血糖が続くため入院となった。退院後、数ヶ月は順調に経過したが、口内炎をきっかけに、また食事摂取量が減ったため、嚥下しやすい食形態の指導依頼が出された。調理者である娘に、口内炎症時には控えるべき食品や形態、嚥下しやすい食形態について説明、経口摂取量の増加とともに、血糖コントロールも安定した。

【考察】患者の中には、入院中は良好であっても、退院して自宅に戻ると、さまざまな問題が原因となり、食事療法がうまくいかないケースがある。病院の管理栄養士が、入院中の患者に栄養管理を行うことは、当然であるが、退院後も食事療法を必要とする患者への支援も重要だと言える。今後も、病院の外へ一歩踏み出し、在宅における食支援の実績と効果を上げ、さらなる依頼数増加へとつなげていきたいと考える。

P1-2

その人と真摯に向き合う中断訪問活動を ～無料低額診療事業利用者の 通院中断死亡事例をうけて～

京都民医連

○岡村 泰彦(事務)¹⁾²⁾、森實 千香²⁾

1)京都保健会 吉祥院病院 医事課、

2)京都保健会 吉祥院病院 外来看護課

【発端】警察署より問い合わせで無低診利用の患者が自宅で亡くなった事が判明した。

無低診にもかかわらず通院中断して亡くなるという事態を重く見て、緊急対策として当院の無低診患者をチェック、理由が明らかでなく中断している患者を抽出した。外来カンファレンスで提起し、電話かけと自宅訪問を行い、抽出患者全員の無事と2件の通院につながった。

【症例1】70代男性、糖尿病主治医の外来がなくなり、薬代も払えず翌年以降、中断しがちになる。手紙郵送、訪問後に受診するも再び中断し、無低診の更新面談にも来られなかった。再度自宅訪問し、通院困難のため往診となり、翌日入院。HbA1c8.5%→11.1%と大幅に悪化していた。

【症例2】60代男性、上記同様と主治医と合わず中断しがちになり訪問で受診を促すも来院されず、翌年風邪で来院。医師も看護師も中断患者と把握できず、採血結果は後日として一旦帰宅してもらったがHbA1cの数値が悪く、連絡して再受診。当院が満床の為、関連病院に紹介し糖尿病性ケトアシドーシスでHCUに緊急入院された。

【問題点】無低診利用者、要中断対策としてリストアップされたにもかかわらず、最初の対応以降、対策がとられておらず、中断対策活動に対して反応のない患者への取り組みが組織的に論議されていなかった。また中断内容の詳細がカルテに反映されておらず、急性疾患の受診では医師、看護師は問題患者とわからなかった。

【考察(意見・感想)】無低診は経済的な理由で医療を受けられない方の受け皿となっていたが、制度を利用するからといって経済的に大丈夫ではなく、無低診では対象外である薬代が払えず、また生活上、治療上の悩みといったことで中断につながることもある。患者さんの状況の変化を見逃さないことと、あきらめない中断対策の継続が重要と考える。

外来看護課で中断記録を作成し、また電子カルテに誰しもが中断内容を把握できるように、システムを構築中である。

県連別演題一覧

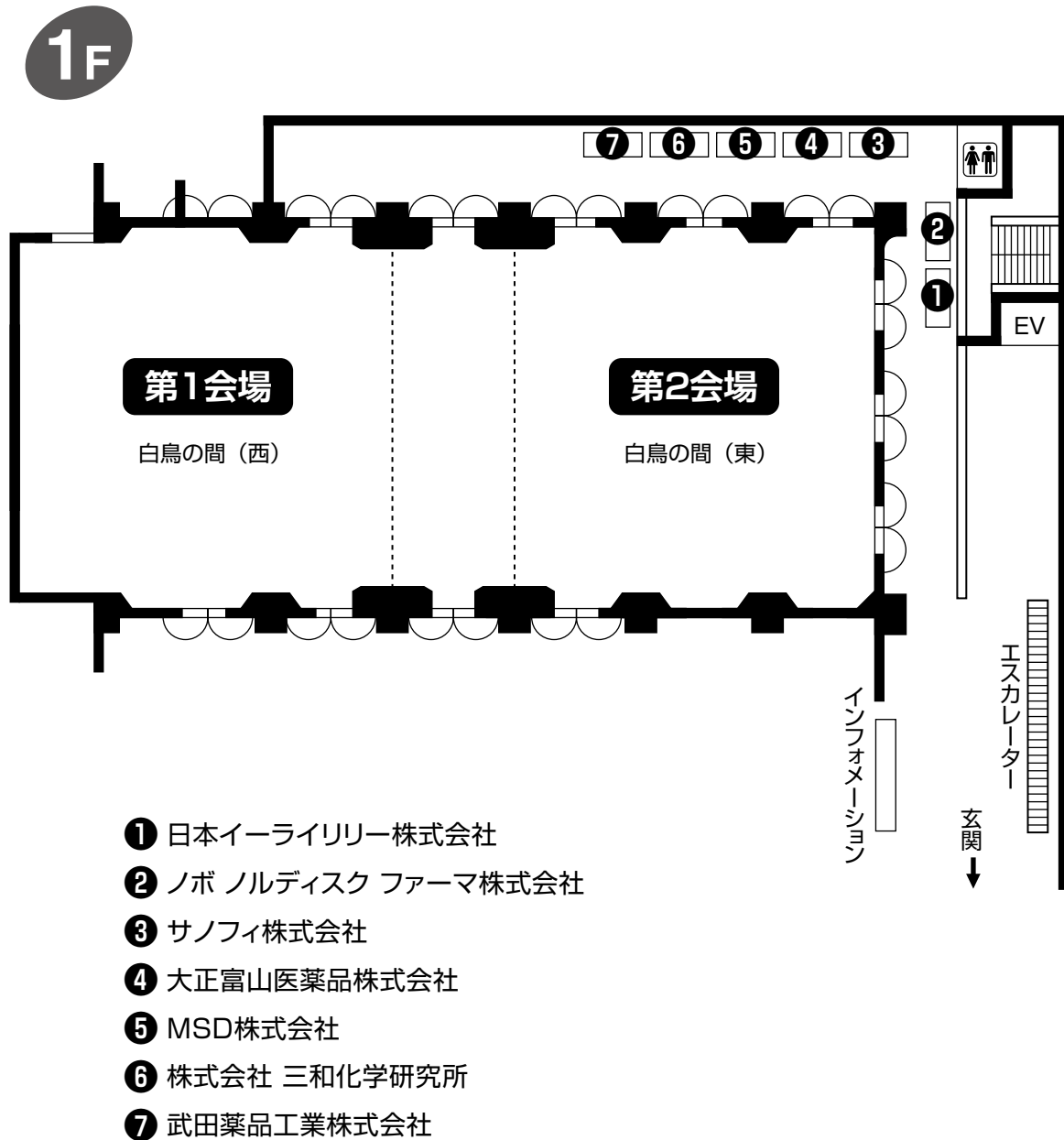
県連名	演題番号	演 題 名	発 表 者	職 種	所 属	頁
北海道	O7-3	1型糖尿病を持つ高齢者の生活を支える 外来看護師の役割	笹川 恭子	看護師	勤医協中央病院 外来	53
北海道	O9-4	急性期 DPC 病院における糖尿病医療の 役割についての考察	伊古田 明美	医師	勤医協中央病院	59
北海道	O10-6	糖尿病患者のフットケア外来への誘導の試み	小田 隆子	看護師	勤医協中央病院 外来	63
北海道	O11-3	血糖管理アプリ等を導入したカーボカウント指導の 実践	岩崎 唯	管理栄養士	勤医協中央病院 栄養科	65
北海道	O12-5	当院における糖尿病高齢者の総合機能評価と 血糖コントロール	佐久間 文子	医師	道北勤医協 旭川医院	69
北海道	O12-6	ヘルスリテラシーによる高齢者総合機能評価 CGA の 3 年間の変化	横山 ルミ	看護師	道北勤医協一条 クリニック	69
宮 城	O3-1	定期問診の取り組みと今後の課題	笹森 波	看護師	長町病院 外来	43
宮 城	O4-2	外来と保険薬局との連携 ～自宅訪問による情報共有～	伊藤 美砂	看護師	坂総合クリニック	45
宮 城	O4-3	チームで支える認知症患者の療養支援	志賀 綾子	看護師	長町病院 外来	46
宮 城	O4-4	グループホームへ入所する認知症合併糖尿病患者の 退院支援に必要な病棟看護師の役割	星 あすか	看護師	宮城厚生協会 坂総合病院 糖代謝科	46
宮 城	O5-1	当院の通所リハビリテーションが糖尿病高齢者の 運動療法によいと思うところ	工藤 雄一郎	リハビリ	宮城厚生協会 坂総合病院 クリニック 通所リハビリ テーション	47
宮 城	O5-2	低強度運動が糖尿病患者の血糖値に及ぼす影響 —第2報—	咲間 優	健康運動 指導士	坂総合クリニック 運動療法センター	47
宮 城	O5-3	運動療法を継続している慢性疾患患者の モチベーションの検討	我満 琴絵	健康運動 指導士	坂総合クリニック 運動療法センター	48
宮 城	O9-2	入院中にカーボカウントを導入出来た症例から チーム医療を考える	鎌田 弘美	管理栄養士	宮城厚生協会 坂総合病院	58
宮 城	P2-4	診察の待ち時間を活用した食生活改善の啓蒙活動	鈴木 亜紀	管理栄養士	宮城厚生協会長町病院 食養室	77
千 葉	O2-1	高齢者自己注射療法の実態と工夫	守月 るみ子	医師	千葉健生病院	40
千 葉	O3-4	みんなでつくる！「楽しくやせる教室」の取り組み と成果	福島 彩香	保健師	千葉勤医協 二和ふれあい クリニック	44
千 葉	P1-5	おっと、まさかの認知症！ ～糖尿病教育入院中に判明した認知症患者の検討	池田 美佳	医師	船橋二和病院 内科	74
千 葉	P3-3	新規糖尿病患者における初回糖尿病治療薬調査結果 の報告	吉野 禎章	薬剤師	船橋二和病院 薬剤科	80
千 葉	P3-4	どうやったら伝わる？薬の効き方 ～分かりやすい糖尿病教室を目指して～	松本 宜子	薬剤師	船橋二和病院 糖尿病チーム	80
千 葉	P3-5	インスリン療法患者へのアンケートからみえた 製剤および針の扱いの問題点についての対策	左座 真里依	薬剤師	すこやか薬局	81
千 葉	P5-5	従来の糖尿病教育の見直し ～わたしたちがやれる糖尿病教育～	松本 美緒	看護師	船橋二和病院 地域包括ケア病棟	88
東 京	O6-4	糖尿病透析予防プログラムの取り組みから 見えてきたこと	小松 明美	看護師	みさと健和クリニック 内科	51
東 京	O7-6	足壊疽、切断に至った患者さんから学んだ事	中村 美和子	看護師	立川相互ふれあいクリ ニック 代謝内科	54
東 京	P5-7	糖尿病ケアチームにおける地域への糖尿病啓蒙活動 の試み	松岡 美緒	看護師	立川相互病院 看護部	89

県連名	演題番号	演 題 名	発 表 者	職 種	所 属	頁
山 梨	O7-2	糖尿病管理が困難な患者を地域で支援するための 外来看護師の役割とは	大桐 仁美	看護師	巨摩共立病院 外来	52
新 潟	O5-4	2型糖尿病患者における長期間の運動療法の継続が 体力に及ぼす影響	高橋 良太	健康運動 指導士	かえつクリニック メディカルフィットネス 「ウオーム」	48
新 潟	O6-3	初共催！クリニック×行政＝糖尿病予防セミナー2017 ～糖尿病専門外来が担う HPH 活動に取り組んで～	古川 理志	健康運動 指導士	かえつクリニック メディカルフィットネス・ ウオーム	50
新 潟	O11-1	糖尿病教育入院を複数回受けたのにも関わらず 糖尿病壊疽を繰り返した症例	白又 美里	管理栄養士	下越病院 栄養課	64
新 潟	P1-3	5年間、糖尿病治療を中断 (左下肢化膿性脊髄炎を発症した事例を通して)	伊藤 牧子	看護師	下越病院 4階東病棟	73
新 潟	P1-4	糖尿病教育入院を通して(自己理解による解釈で コントロール不良な事例を通して)	波多野 純子	看護師	下越病院 4階東病棟	73
新 潟	P1-7	DPP-4阻害薬によると思われる水疱性類天疱瘡の 一事例	長井 一彦	薬剤師	下越病院 薬剤課	75
新 潟	P2-2	透析室フット観察導入による足病変改善への展望 ーフット観察導入1年半から見えてきたことー	渡邊 将秀	看護師	下越病院 透析室	76
富 山	O2-5	当院におけるエンパグリフロジンの使用状況と 副作用対策	有賀 絵里	薬剤師	富山協立病院 薬剤科	42
富 山	P4-7	訪問看護による多職種連携により社会参加を 支援した一症例	長谷川 俊一	リハビリ	富山協立病院 リハビリ テーション科	85
富 山	P5-3	HbA1c : 10%以上が続く患者の病状と背景	松井 法生	医師	富山協立病院	87
石 川	O6-5	創立50年を経過した糖尿病患者会みのり会の 現状と今後の展望第1報	山下 あゆみ	管理栄養士	城北診療所	51
石 川	O8-4	抗血管新生薬(ルセンテイス：一般名 ラニズマム) 使用前後の視覚に関連した QOL 尺度の変化の検討	堀口 泰子	検査技師	城北病院 検査部	56
石 川	O8-5	ソフトドリンクトーシスを契機に血液透析を 要した非外傷性横紋筋融解症を合併した 2型糖尿病の一例	岩本 和恵	医師	城北病院 内科	57
石 川	O9-5	糖尿病療養指導の向上を目指した患者心理の 学習会の効果	八田 早苗	看護師	石川勤労者医療協会 城北病院	60
石 川	P2-1	社会的孤立をした独居患者の家庭訪問から、 フットケア外来に繋がった1例	岡島 千晶	保健師	城北診療所	75
石 川	P2-5	不規則運転手士として働く糖尿病患者の 生活スタイルに合わせた管理栄養の関わり	西鍛治 遥	管理栄養士	城北診療所	77
石 川	P4-5	半世紀を経過した糖尿病患者会「みのり会」の 現状と展望 ー職員と会員へのアンケート調査から 課題を考えるー	大川 希久子	事務	石川勤労者医療協会城北 診療所 診療サービス課	84
長 野	O3-2	糖尿病教育入院における多職種による カンファレンスの課題	牧内 和子	看護師	社会医療法人健和会 健和 会病院 成人外来	43
長 野	O6-2	PAID 分析からみえたもの	塚田 葉里	看護師	松本協立病院	50
長 野	O10-3	SGLT2阻害剤投与後の腎機能、尿中微量アルブミン 排泄の変化 ー病期別の検討ー	近藤 照貴	医師	長野中央病院 内科	62
長 野	O10-5	当院における外来フットケアの現状と今後への展望	下澤 樹理	看護師	中信勤医協松本協立病院 内科外来	63
長 野	O12-3	インスリン療法中後期高齢2型糖尿病の CGM による 血糖変動の解析 ーカテゴリー分類と治療別低血糖リスクー	青木 由貴子	医師	長野中央病院 内科	68

企業展示会場

企業展示ブース

展示時間：2018年10月26日（金） 午後2時45分から午後6時30分
於：新潟東映ホテル 1階ロビー



編集後記

最初に、日本各地で発生した災害において被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。

2016年7月に行われた北海道開催後すぐに実行員会を立ち上げ、約2年間準備をすすめてきました。会議を重ねる中で、この歴史あるシンポジウムをつくり上げることが出来るのか毎日不安でしたが、実行委員会、糖尿病グループ、病院・クリニック職員に支えられたことが力となって形になっていったと思います。

今回のテーマは「動き出そう！ ～一歩を踏み出すドキめき体験～」です。今回のシンポジウムは参加型を重点にしています。頭、口、体、手足等を大いに動かし、日常診療や療養指導に役立つヒントを発見できることを願っています。また、糖尿病の中断、悪化は格差や貧困による要素もあり、民医連方針である「2つの柱」の実践を積極的にすすめていくことが望まれます。

それでは当日、会場で活発な発表や討議が行われ、懇親会では美味しいお酒を酌み交わしながら語り合えることを期待しつつ、編集後記とさせていただきます。

第35回全日本民医連糖尿病シンポジウム in 新潟

事務局長 稲月 幸範（新潟勤医協 下越病院・薬剤師）

第35回全日本民医連糖尿病シンポジウム in 新潟 プログラム・抄録集

実行委員長：岡田 節朗

事務局：新潟勤労者医療協会 下越病院

事務局長：稲月 幸範

〒956-0814 新潟県新潟市秋葉区東金沢1459番地1

TEL：0250-22-4711

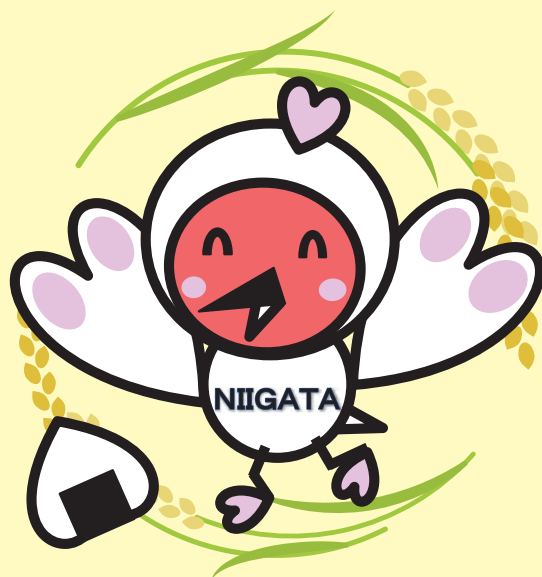
E-mail：dmsymponiigata@niigata-min.or.jp

出版：株式会社セカンド

〒862-0950 熊本市中央区水前寺4-39-11 ヤマウチビル1F

TEL：096-382-7793 FAX：096-386-2025

<https://secand.jp/>



イメージキャラクター トキミン

第35回 全日本民医連 糖尿病シンポジウム in 新潟

事務局長 稲月 幸範

新潟勤労者医療協会 下越病院

〒956-0814 新潟県新潟市秋葉区東金沢1459番地1

TEL: 0250-22-4711

E-mail: dmsymponiigata@niigata-min.or.jp